

国際園芸博覧会の開催に向けた取組の進捗状況について

横浜市では、平成27年6月に米軍から返還された旧上瀬谷通信施設において、2027年の国際園芸博覧会の開催に向けた取組を進めています。

3月の国際園芸家協会（AIPH）の春会議において、他の開催予定都市とともに、検討状況について進捗報告を行う予定です。

なお、国の国際園芸博覧会検討会^{※1}での議論を踏まえ、国からAIPHに対して政府支持書（サポートレター）^{※2}が送付される予定です。

引き続き、市民の皆様や関係者等の御意見をいただきながら、国や経済界とも連携して、横浜開催に向けた取組を進めていきます。

1 今年度の取組（AIPH 開催申請・承認以降の主なもの）

時 期	内 容
令和元年9月	AIPH総会での開催申請・承認 北京国際園芸博覧会ジャパンデー・フェスティバルでの横浜開催PR 国の第2回国際園芸博覧会検討会で市の検討状況を報告
11月	「国の制度及び予算に関する提案・要望」で開催に向けた継続検討を国に要請
12月	国の第3回国際園芸博覧会検討会で市の検討状況を報告
令和2年3月 (予定)	2日に米国マイアミで行われるAIPHの春会議で、国際園芸博覧会の検討状況について進捗報告

2 令和2年度の主な予定 ※令和2年度予算案計上事業

(1) 開催に向けた検討

国際園芸博覧会の会場構想、事業展開、来場者の円滑な輸送アクセス等について、深度化を図る調査・検討を行います。

(2) 全国的な推進組織の設立

博覧会の開催組織となる法人の設立準備や、全国的な機運醸成等を行うことを目的として、全国的な推進組織を設立します。

※1 国際園芸博覧会検討会

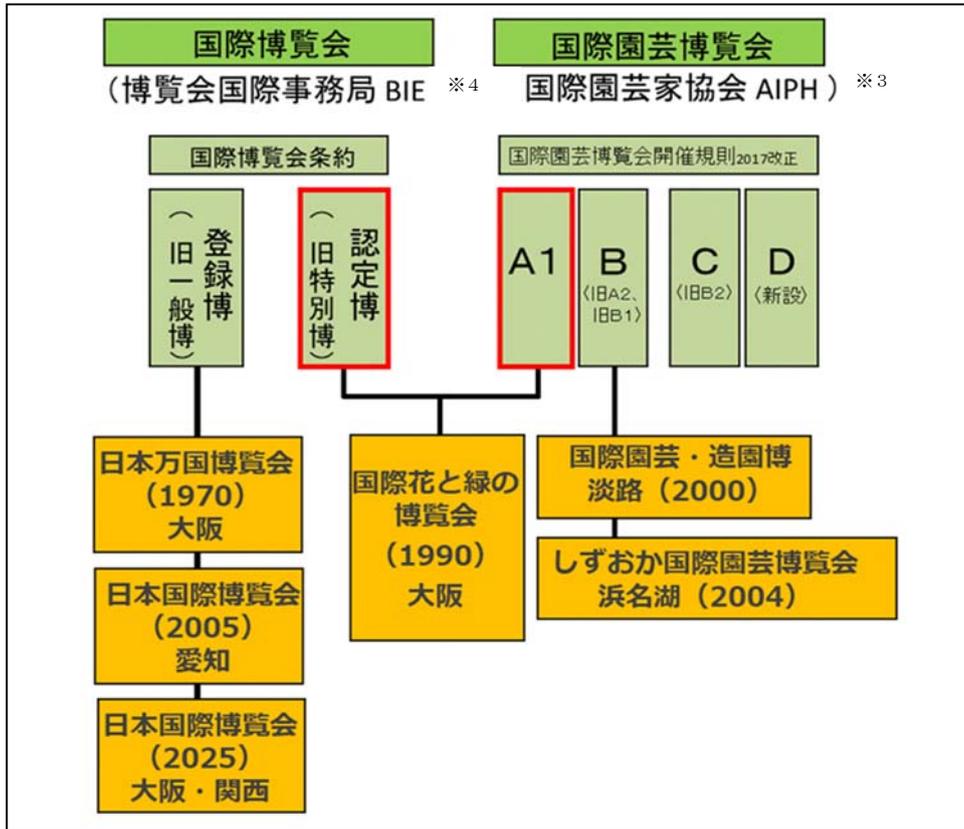
国際園芸博覧会の開催に関する国としての政策的意義や、横浜市で開催する国際園芸博覧会の方向性等について検討を行う有識者検討会（令和元年8月設置）。

※2 政府支持書

国際園芸博覧会規則に定めるA1クラス（国家的プロジェクトとなる博覧会）に求められる書類で、当該国の政府の支持に関する確認書

【参考1】国際園芸博覧会

国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的に開催される博覧会。横浜市が目指しているのは国家的プロジェクトとなる博覧会（A1クラス）で、国内では1990年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会（花の万博）」がある。



※3 国際園芸家協会（AIIPH：International Association of Horticultural Producers）

国際的な非営利組織で、国際園芸博覧会の承認を行う主体。日本では一般社団法人日本造園建設業協会が会員。

※4 博覧会国際事務局（BIE：Bureau International des Expositions）

すべての国際博覧会の監督及び調整を担う政府間組織。A1クラスの国際園芸博覧会は、BIEによる認定を受ける必要がある。なお、BIEへの申請は政府が行う。

【参考2】スケジュール（想定）

年	項目
2018	基本構想案の策定 国への招致要望
2019	AIPHに園芸博開催申請・承認
2020 ～ 2026	閣議了解、BIEに園芸博開催申請・承認 博覧会開催組織の設立 閣議決定、BIEに園芸博認定申請・承認 会場計画・整備、参加招請 プレイベントなど
2027	園芸博の開催（3～9月）

【参考3】国際園芸博覧会（認定博）の開催状況

年	開催国（都市）	参考（登録博）
2015		ミラノ万博
2016	トルコ（アンタルヤ）	
2019	中国（北京）	
2020		ドバイ万博
2021	カタール（ドーハ）	
2022	オランダ（アルメール）	
2024	ポーランド（ウッチ）	
2025		大阪・関西万博